

BUNKYO 文協

長崎県文化団体協議会

2005.9.....

62

特集 ●第33回長崎県新人発表演奏会

- ホールスタッフ
とぎつカナリーホール副館長／田中昭彦
- 地域文化の担い手（平戸編）
“長崎を文化王国に”／町田雅之



BUNKY 文協



特集

「明日への予感」…………… 2
第33回長崎県新人発表演奏会



○第33回長崎県新人発表演奏会を聴いて…………… 8
(第33回長崎県新人発表演奏会審査委員長
大阪シンフォニカー交響楽団首席指揮者／大山平一郎)

○さらにいい発表会にするために…………… 9
(第33回長崎県新人発表演奏会推進委員会委員長
元大村高等学校校長／友永 仁)

○第34回の実施要項(要点)…………… 9

HALLStaff (ホールスタッフ)

(とぎつカナリーホール副館長／田中昭彦)…………… 10



地域文化の担い手(平戸編)

●“長崎を文化王国に”…………… 14
(平戸文化協会会長／町田 雅之)

●せみしぐれ／祈りの里コンサートin木ヶ津…………… 17



最新イベントガイド

●「第4回長崎県ライトミュージックフェスティバル」
●日本の伝統芸能公演／“津軽三味線”
●しまの芸術祭…………… 18

●「しま」の教会音楽コンサート
●長崎県人形芝居フェスティバル
●ながさき室内楽祭…………… 19

●第50回記念長崎県美術展覧会公募展
●タイトル大募集！
●編集後記…………… 20



◎ 演奏者の声 Instrumentalist



横川直美 (ギター)
■尚絅大学文学部国文学科卒業

どんな時も向上心を持って

第33回長崎県新人発表演奏会では多くの方々の御支援のもと貴重な体験をさせて頂いた事に心より感謝しております。

目標を持って演奏する事が上達につながるのではないかと考え、新人演奏会のオーディションをここ数年受けていた結果、今年は合格・出演が決まり演奏会までは喜びと不安の入り混じる複雑な気持ちで過ごしました。

演奏会前日からのスタッフの方々や出演者の方達との交流が緊張を柔らげ、当日のブリックホールでは精一杯の演奏をさせて頂きました。しかし、この演奏会に出演する準備段階で十分に出来なかった事は今後の課題として残っています。

日々いろんな事が起こる人生の中で、演奏を続けていくことは大変なことも多いのかもしれませんが、非日常的で豊かなギターの音色と演奏の世界に憧れを持ち続ける限り、どんな時も向上心を持ち演奏に臨むことを大切にしたいと思います。

最後になりましたが演奏会を企画・運営して下さいの皆様、熱心に御指導して下さいる先生、当日お忙しい中演奏を聴きに来て下さった皆様そして見守ってくれる家族にこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

大好きな音楽を楽しみながら続けていきたい

新人演奏会が終わった今思うことは、素敵で暖かな舞台を経験できた喜びと、これまで私の成長を支えて応援してくれた人々への感謝の気持ちです。本当にたくさんの人々に支えられここまでピアノを続けてこれましたし、いろんな人々との出会いもありました。中でも昨年の暮れに亡くなりました祖母には音大進学の時から大学院まで力強くサポートしてもらいました。この演奏会に出演することもかねてからの約束でした。残念ながら数か月の差で聞きにに来てもらえなかったことが悔やまれますが、きっと空の上から見守ってくれていたと思います。私のピアノ演奏を聞くことをとても楽しみにしてくれていた祖母でした。私もこれから音楽を続けていくことで少しでも恩返しができたらと思います。

私がピアノを習い始めてからこれまで二十年の月日が経ちました。一つのことを続けていると楽しいこともたくさんありますが、やはり壁にも何度もぶつかりました。私にとってピアノを弾き続けることは、自分の内面と向きあい、自分を探す旅でもあります。壁にぶつかると思悩、苦しみ、時には涙しながら常にそれをどう乗り越えるか考えます。例えばピアノの音色一つとってみても私は自分なりの答えを見つけるのに数年かかりました。よくピアノのレッスンで「そこは雰囲気が変わるから音色を変えて」と言われるのですが、どのようにすれば音色が変わるのかわからなかったのです。数年の間、常に『音色とは?』という疑問を抱えながらいろんな演奏を聞いたり、自分でもピアノの前に座っては考える日々でした。それがある時、あるピアニストのCDを何げなく聞いている時に一瞬にしてひらめき、音色に関する悩みが吹きとんだのです。一見、そんな問題と思うかもしれませんが、本人にとっては音色一つとっても、それが分かるようにならないとピアノ弾きとしては致命的だったのです。不思議なもので、悩み抜いた課題が解けた後というのは、それまで見えなかった新たな音楽の世界が目前に広がるのです。この時の喜びは格別なもので、これがあるからどんな課題が自分の前に立ち来たがっても乗り越えようとするパワーがでています。これが私にとってピアノを続ける醍醐味でもあり、自分の成長を感じられる時でもあります。もちろん音楽が好きですし、私の演奏で喜んでくださる方々の声も大きな励みとなります。

これまで経験したこと全てが私の中に財産として残り、応援してくれている家族、尊敬する師、音楽の仲間、そして皆様がいってくれてこそ私です。いつも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもまた大好きな音楽を楽しみながら続けていきたいと思っています。どうぞクラシック音楽もよろしくお願いします。



相良陽子 (ピアノ)
■国立音楽大学大学院
音楽研究科器楽専攻修了

名実ともに本県クラシック音楽家の新人登竜門として定着している長崎県新人発表演奏会。昭和四十七年の第一回以来、これまでに千二百七十五名の方々に応募をいただき、三百二十九名の若いアーティストが舞台を踏んでいます。第三十三回の今年は六月二十四日(金)に長崎ブリックホールで開かれました。出演したのは、応募総数六十五名の中から三月の厳しいオーディションで優秀賞を受賞した、声楽・ピアノ・フルート・バイオリン・ギターの十一名の皆さん。いずれも、「明日への予感」十分な素晴らしいステージでした。

第33回長崎県新人発表演奏会

第33回新人発表演奏会 ◎ プ ロ グ ラ ム ◎

◎横川 直美 (ギター)

- エチュード 第11番 H.V.ロボス
- 無伴奏チェロ組曲 第3番 イ長調 BWV.1009より
プレリュード J.S.バッハ

◎相良 陽子 (ピアノ)

- 24の前奏曲 op.28より
1・3・7・8・11・16・17・23・24 F.ショパン

◎中上亜紗子 (ソプラノ)

- ◇伴奏者/朝重 幸子
- アヴェ・マリア G.ヴェルディ
- 歌劇「エルナーニ」より
エルナーニ、私を連れて逃げて..... G.ヴェルディ

◎中邨 菜穂 (ピアノ)

- 練習曲集「音の絵」op.39-8 二短調... S.ラフマニノフ
- 練習曲集「音の絵」op.39-9 二長調... S.ラフマニノフ

◎塚原 絢 (ソプラノ)

- ◇伴奏者/松本 鮎美
- 歌劇「パリジーナ・デステ」より時々見る夢
..... G.ドニゼッティ
- 歌劇「泥棒かささぎ」より心は喜びで踊っている
..... G.ロッシーニ

◎佐々 静香 (フルート)

- ◇伴奏者/中根 浩晶
- フルートとピアノの為のバラード F.マルタン

◎藤木 修爾 (バイオリン)

- ◇伴奏者/江頭 玲衣
- ワルツカプリース op.52-6
..... C.サン=サーンス (編曲:E.イザイ)

◎勝山 藍 (ソプラノ)

- ◇伴奏者/山口 香織
- すてきな春に...小林 秀雄
- 歌劇「連隊の娘」より
では、決まってしまったのね~富も栄華の家柄も
..... G.ドニゼッティ

◎樋脇 優子 (ピアノ)

- ソナタより 第3楽章 コラールとヴァリエーション
..... H.デュティユー

◎吉川 友理 (ソプラノ)

- ◇伴奏者/一ノ瀬佳絵
- 歌劇「ランメルモールのルチア」より
悲しみの涙で (狂乱の場) G.ドニゼッティ

◎楠本 緑 (ピアノ)

- 前奏曲 変ホ長調 op.23-6 S.ラフマニノフ
- ソナタ 第3番 イ短調 op.28 S.プロコフィエフ



明日への予感



塚原 絢 (ソプラノ)
■(財)日本オペラ振興会
オペラ歌手育成部
マスターコース在籍中

憧れのステージに立てた喜び

第33回長崎県新人発表演奏会に出演できた事、本当にうれしく思っております。

オーディション後の合格発表の時、奨励賞受賞者の中に名前が入っておらず、「はぁ…終わった…」と緊張が溶けた頃名前が呼ばれ、本当に驚きました。私にとってこの演奏会は声楽を始めてからずっと憧れていたステージでした。大学を卒業と同時にオーディションを受ける先輩方の姿を見てきて、私も！と思っていましたが実際は厳しく、大学卒業と同時に受けることを諦めました。そして今年、ぎりぎりまで悩みオーディションに挑む決心をしました。そして、長崎県新人発表演奏会が行われたブリックホールでは、大学の定期演奏会で何度かステージに立った事がありましたが、ソロとして立つのは初めてで、ものすごく広い空間と聴きにきてくださった皆様を目の前にし、不安と緊張が大きくなった事を覚えています。しかし、歌い出すとこの場に立っている幸せや楽しさから、除々に不安もなくなり、良い緊張感を保ったまま歌い終えることができました。まだまだ未熟ではありますが、今まで歌ってきた中で一番自分で納得がいく演奏ができたと思います。今までどんなに練習を積んで本番を迎えても、ものすごい緊張に襲われ自信がない私でしたが、憧れのステージに立て

たということで、少しですが自信を持てる様になりました。

今回伴奏をしてくださった松本鮎美さんとは、大学生の頃からずっと私の伴奏をして頂いていて、久しぶりに一緒にステージに立ちました。卒業して私が長崎を離れているため、オーディション前や本番前に合わせをすることがほとんどできず、お互い不安な気持ちだったのではないだろうかと思います。しかし、松本さんのピアノの音を聴くと、安心し信頼して歌うことができました。彼女にはいつも支えられているなぁと感謝の気持ちでいっぱいです。

長崎を離れている今、大学の時の友達や長崎でお世話になった方々、先生方に支えられ、少しずつではありますがオペラ歌手としていつか舞台に立つ夢を持ち、在籍している(財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部マスターコースにて、演技の難しさに悪戦苦闘しながら課題に追われる日々を過ごしています。

これから先、もっと辛く苦しい道程や壁にぶつかることもあるでしょう。そんな時、きっとこの憧れのステージに立てた事が自信へと導いてくれることと思います。いつかまた、ブリックホールで、この長崎という地で歌える日が来る様に、応援してくださっている家族、友達、先生方の想いを胸に一步一步確実に歩んで行きたいと思っています。

また、素敵な演奏会となったのも、裏方であるスタッフの皆様のお陰だと思っています。これからも私達演奏家の支えとなり、共に素敵な演奏会を作りあげていけたらと思います。本当にありがとうございました。

いつも心に F e l i c e (幸せ)を…

これからも精一杯頑張ります

私にとって、地元長崎で演奏することは長年の目標でした。フルートを志し、本格的に学び始めた私は、自分の演奏能力について、随分と悩む日々が続きました。1年ないし2年に1度は母の門下のピアノの発表会に出させてもらっていましたが、聴衆の方をお客様と捉えることがなかなか出来ず、緊張の連続だったように思います。そのような時期から歳月を経て、現在はドイツで学ぶ私ですが、今ではその頃の自分が非常に新鮮に思えます。

ステージに立ちお客様を目の前にしたとき、そのようなことがふと頭をよぎり、そこに流れている時期がとても不思議に感じました。ひとつ目標に手が届いたと言うのでしょうか、そのような瞬間は、以外に冷静に過ぎていくもので、近くに座っていた親戚、そして、遠くの方で見守る家族を見ては、感謝の気持ちでいっぱいでした。しかし、両親の前で真剣な姿を見せる、と言うのは簡単なようで難しく、少々照れくさいものです。ましてや、ニコニコした顔でこちらを見る父が目に入ってくると、それだけで恥ずかしくなっていました。一切の邪念を振り払って、聴いて下さっている方々に音楽を通して出てきたように感じました。

そしてこの新人演奏会は、支えられている自分に再度気づく、そのような時間でもありました。企画構成の全てを運営してくださった県の職員の方々、大山先生を初めとする審査をされた先生方、また当日お越しくださったお客様にいたるまで、たくさんの方々に支えられて、ステージの上に立てる自分が居るのだと思うと、今後の活動にも大変胸が引き締まる思いです。また演奏会終了後に、大山先生よりご批評いただいたことは、本当に光栄でした。

素敵な経験をさせていただけたこの日に恥じることもないよう、これからも精一杯頑張ってまいりたいと存じます。どうもありがとうございました。



佐々 静香 (フルート)
■ドイツ国立ベルリン
"ハンス・アイスラー"音楽大学
4年在学中



中上亜紗子 (ソプラノ)
■長崎大学大学院教育学研究科
教科教育専攻
音楽教育専修 1年在学中

聴いている人達に「楽しい」と感じて貰えるような歌い手になりたい

第33回長崎県新人発表演奏会に出演させて頂き、ありがとうございました。出演が決まった時は「まさか私が…?」という気持ちで、全く実感が湧きませんでした。初めに嬉しさが込み上げてきましたが、後から不安も押し寄せてきました。「果たしてブリックホールという大きな舞台で最後まで歌いきることができるのだろうか…」と。

月日の流れは早く、あっという間に本番当日となってしまいました。私は既にリハーサルの時点で他の出演者の方の演奏に圧倒されました。「自分自身の音楽」というものを強く持っていて、自信に満ち溢れているように感じました。もちろん人間誰でも緊張します。しかし、その緊張の中にはそれまでに積み重ねてきた努力からくる「自信」も必要かと思います。

今回の演奏会に出演することができ、他の出演者の方の演奏を聴いたことによってとても良い刺激を受けました。これからの私の音楽人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。将来、歌うことの楽しさを実感しながら自分に自信を持って演奏でき、そして聴いている人達に「楽しい」と感じて貰えるような歌い手にな

りたいです。今は歌うことが楽しくて、好きで仕方ありません。これから先、大きな壁を目前にすることが多々あると思います。きっとその壁は「歌うことが好きだ」という気持ちだけでは乗り越えられません。そのためには「心(精神)」と「体」の両方を鍛え、そして一步步ずつ成長していけたらと思っています。「一期一会」も大切にしながら、勉強を続けたいです。

最後となりましたが、今まで御指導頂いた先生にこの場をお借りして御礼申し上げます。学生生活を共にした友人、そして日常を支えてくれた家族にも感謝しています。ありがとうございました。

「自分を信じる勇気を持ちなさい」

—「自分を信じる勇気を持ちなさい」—これは、レッスン中に私の恩師から頂いた言葉です。私はこの大きな舞台、「第33回長崎県新人発表演奏会」に出演させて頂いたことによって、この言葉を自分のものにすることができました。

幼い頃から音楽に触れて育ったものの、私は音楽にとって一番大切な「表現すること」を恐れていたように思います。これまで何に対しても常に自分に自信がなく、他人の評価ばかり気にしていました。このような気持ちで音楽と向き合ってもがいていた私に、この言葉が光を与えてくれました。そして、この言葉を目標にし、演奏会に臨みました。

自分を信じる勇気を持って舞台に立ち、自分の空気で会場内を満たすには、努力とくじけない強い思いが必要でした。努力をすることは、この曲・作曲者を好きだという気持ちが容易にしてくれました。練習嫌いだった私は、この曲に魅かれ、深く入り込んでいくうちに、忘れかけていた“歌う心”を思い出し、音を楽しめるようになっていました。この時期にこの曲と出逢えた事は運命のようなものだと思います。くじけない強い思いは、私に一番足りなかった事で、演奏会が終わるまで残されていた課題でした。今までに経験したことのない程大きな責任と不安と緊張で押し潰され、ふうっと一吹きするだけですぐに折れてしまいそうな、グラグラした私の心を、最後までしっかりと力強く、そして優しく支えていたのは、応援して下さった皆様の温かいお気持ちでした。皆様の想いが深く染み込み、感謝の気持ちでいっぱいになった私は、「何とか恩返しをしたい。今の私の世界を共に味わってもらいたい」と強く感じ、舞台に立ちました。あの時の感情は、今思い出しても熱く蘇ってきます。お世話になった皆様方の後押しによって目標を達成し、まだまだ勉強不足で、足りない所も多々ありましたが、それも含め今の精一杯の演奏をさせて頂くことができました。

演奏会を終えた今、大きく心の変化をした私は、見るもの聴くものすべてが新鮮で、子供の頃のように、良い事も悪い事も、毎日発見の連続で、色の濃い日々を楽しみながら送っています。これからたくさんの経験をし、音楽的にも人間的にも成長し続け、心で感じる音楽を多くの方々と共有し合えるような音楽を作っていきたいと思っています。この情緒溢れる大好きな長崎で、たくさんの素敵な方々に出逢えた事を幸せに思います。

最後になりましたが、演奏会当日まで陰で支えて下さったスタッフの皆様、これまで音楽によって人生観まで明るいものにして頂いた恩師、いつも私の力になって下さっている家族、友人、知人、すべての方々に、深く深く感謝しています。この場をお借りして御礼申し上げます。

本当に有り難うございました。



中邨 菜穂 (ピアノ)
■活水女子大学
音楽学部演奏学科卒業



槌脇 優子 (ピアノ)
■活水女子大学
音楽学部演奏学科卒業

ピアノとは「自分を映す鏡」のようなもの

第33回長崎県新人発表演奏会に出演させて頂き、ありがとうございました。私は、このような大きな舞台に立つことが初めてでしたので、緊張と不安でいっぱいでした。しかし、大学の先生方や友人、後輩たちに励まされ、演奏会を楽しみにしていることを聞かされると、「今の私にできることを精一杯しよう」と、気持ちを奮い立たせて練習に励みました。

演奏会当日は、前日に出演者の方々と顔合わせをしていたこともあって、「お互い良い演奏をしましょうね」と、声をかけ合ったりと、舞台裏ではなごやかな空気を醸し出していました。私はそのおかげで、気持ちを楽にして演奏だけに集中することができました。演奏は緊張していたこともあって十分納得のいくものではなく、多くの課題が残りましたが、これからの勉強で少しずつその課題を克服していこうと思います。私にとってピアノとは『自分を映す鏡』のようなものなので、演奏技術と共に心も成長できるよう、様々なことを学び吸収し、たくさんの経験を積み重ねていきたいと思っています。

最後になりましたが、オーディションでは審査員として、そして演奏会のリハーサルでは出演者一人一人にアドバイスをして下さった大山先生、スタッフの皆様、温かく厳しく御指導して下さいった先生、応援してくれた友人たちや後輩、いつも私を励まし見守ってくれる家族、そして演奏会にいらして下さいった方々に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

愛と感謝をもって、輝けるエンターテイナーを目指して

声楽の勉強を始めた時から、先輩方がこの演奏会に出演する姿を見て抱いていた「私もいつか…」という思いが叶い、一人の演奏家としてブリックホールという大きな舞台に立てたことを大変嬉しく思います。支えて下さった先生方や家族、並びに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私が演奏した曲は、大学の卒業演奏会で歌った思い出の曲で、政略結婚の犠牲になったルチアが狂乱して死に至る様を、コロラトゥーラを駆使して表現する難曲として知られています。十分以上も絹糸のように張りつめた緊張感を保たなければならず、技術面だけでなくメンタル面においても私にとってはかなりの挑戦でした。三月のオーディションに合格し演奏会への出演が決まった喜びも束の間、私の心にはひとつの大きな不安が残りました。「シリアスな内容の長い曲で、果たしてお客様に楽しんでいただけるだろうか」。演奏会はオペラの公演とは違って、舞台セットもなければ字幕也没有。その中でいかにして大きなステージ上にその情景を描き出せるか。ルチアの錯乱した精神を表現するために強弱や音色に変化をつけたり、手や目の表情に動きをつけたり。当初は自分がこう表現したいという想いだけが空回りし、それを形にできない自分への腹立たしさとルチアへの感情移入が重なり、吉川友理自身が狂乱してしまいそうな時もありました。そうして迎えた演奏会本番は今の等身大の私なりに、ルチアの最期の想いという絹糸を紡ぐことができたのではないかと思います。歌い終わった瞬間の会場の温かい拍手は、私に今後も歌い続けていく勇気とエネルギーを与えてくれました。

来年はオペラ歌手を目指してイタリアに留学する予定です。体と心いっぱいに様々なことを吸収し、一回り大きくなって皆様の前で演奏できる日を願っています。いつ如何なるときも愛と感謝をもって輝けるエンターテイナーを目指して…。



楠木 緑 (ピアノ)
■東京藝術大学音楽学部器楽科
ピアノ専攻卒業

今回の受賞を励みにさらに努力を重ねます

まず初めに「長崎県新人発表演奏会」に出演する機会を与えて頂いたこと、そして発表会にお越し頂いた皆様、また私達の演奏を当日に至るまで細やかな心配りで支えて頂いたスタッフの皆様には本当に感謝しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、今、発表演奏会を終えて、精一杯練習だけは欠かさなかったもののどんなに練習しても100%の結果を出すということは本当に難しいことだなあと感じています。これからもまだまだ勉強を続けていかなければならない身ですが、今回の受賞を励みにさらに努力を重ね、演奏会に来て下さる方々の期待に応える演奏をする事を今後の課題としたいと考えております。

これまでの音楽活動を通じて、幼い頃からの厳しいレッスンと練習によって今では音楽以外にも通じる忍耐力がついたと実感することが出来ます。

そんなピアノを私の人生にとって自信とかけがえのないものにしてくれたのは、やはりこれまで指導して下さいった先生方のおかげだと深く感謝いたします。

先生方の期待に応える意味でも、今回の演奏会を機会に今後長崎での活動の場を広げられたらと思います。

最後になりましたが、常に私を支え、励まし、応援してくれた家族には本当に感謝しています。新人発表演奏会という大きなステージで、大好きな祖母に自分の演奏を聴いてもらう機会を与えていただいたことに本当に感謝しています。そんな家族に見守られ、大きなブリックホールでの響きを感じながら演奏できたことを嬉しく光栄に思います。本当に有難うございました。



藤木 修 剛 (バイオリン)
■福岡教育大学
中等教育教員養成課程教科コース
音楽専攻 4年在学中

思い出に残る演奏

思い出に残る演奏というのはこれまでに数回しかありませんでしたが、新人発表演奏会は確実にその中の一回でした。私にとって初めての大舞台だったので当然といえばそれまでかもしれませんが、思い出に残る演奏の後は必ず、お腹が痛くなるので間違いなく思い出に残りました。

オーディションを受けようと思ったきっかけは大学の先輩達が受けていたので私も受けてみようと思った次第ですが、何より惹かれたのはレベルの高さと申込料や審査料がいらぬ事でした。曲を決めたのが遅く、とても苦しかったです。しかし自分で決めた事なので毎日一生懸命練習を行いました。指から血が出た事もありましたが、そのおかげで優秀賞を頂き、金子知事にお会いする事もできました。とても嬉しかったです。

オーディションから演奏会まで3ヶ月以上あったので良く練習できました。演奏会当日は朝とてもすがすがしく起きる事ができ、調子が良いのではないかと思います。リハーサルの出来が悪くとても不安になりました。しかし本番はなぜか良く弾けました。今でも舞台に出てから弾き終わって帰るまではしっかりと覚えております。集中できたからだと思います。

演奏会を終えた今は毎日練習にはげんでいるのですが、大きなホールで弾いた経験があるのと無いのでは大違いで、ホールを想定した練習が出来るようになりました。とても良い事だと思います。これからも日々精進していきます。最後になりましたが、ご指導頂いた原田先生、演奏会を聞きに来て頂いた方々、何から何までサポートして頂いた家族の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。

今度はオペラの舞台の皆様と

第33回長崎県新人発表演奏会に出演させていただき、本当にありがとうございます。私は声楽を始めて、今年で10年が経ちます。その様な節目の年に、新人発表演奏会に出演することができて、とても幸せに思います。高校受験がきっかけで出会った声楽が、その素晴らしさに魅了されて、オペラ歌手になりたいと思うまでになりました。現在、その夢を現実にするために、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部オペラマスターコースに在籍して、プロを目指して勉強を続けています。

プロを目指す決めてからは、好きという気持ちだけでは乗り越えられない時期がありました。あんなに大好きでたまらなかった歌が、いつの間にか「こんなに苦しいのに、なぜ歌っているのだろう」と考えるほど、苦痛に感じる事もありました。本当に耐えきれず、諦めようかと思いましたが、このように素敵な演奏会に出演できることができたので、今までの苦勞が報われた様に思っています。

今だから話せますが、実はオーディション当日に怪我をしてしまい、痛さと戦いながら舞台にたちました。歌い始める前に、客席を見渡すと、母が端の方で目をつぶって、手を合わせている姿が見えました。母は、私の代わりにずっと歌い終わるまで、神様に祈ってくれたのです。その姿が支えになって、自分を信じて歌うことができました。久しぶりに、「歌が楽しい!」と思った瞬間でした。このオーディションは、歌うことを諦めようとしていた私に、いろいろな事を教えてくれたように思います。

そして、新人発表演奏会を迎えました。この日は、今まで私を理解して、応援してくれた大切な家族ため。どんな時も希望を捨てず、私を支援してくださる尊敬する先生方へ。時にはよく理解者であり、時にはライバルである大好きな友達へ。そして、お忙しい中、演奏会に足を運んでくださった、たくさんのお客様へ。いろんな方々に感謝をして、ステージに立たせていただきました。

最後になりましたが、演奏会会場を提供して下さったスタッフの皆様、いつも親身になってご指導してくださる尊敬する先生方、かけがえのない友達、そして私をここまで育ててくれた家族に心より感謝いたします。

この新人発表演奏会を第2のスタートとして、新たな気持ちで音楽と向き合ってみようと思います。今度はオペラの舞台で皆様とお会いできることを励みに勉強していきたいです。これからも感謝の気持ちを忘れず、私らしく歌い続けることができますように…。



勝山 藍 (ソプラノ)
■(財)日本オペラ振興会
オペラ歌手育成部
マスターコース在籍中

演奏者が選曲した作品を、どのように「演奏」に繋げるかには、いろんな対応の仕方があると思う

第33回長崎県新人発表演奏会を聴いて

この3月に行われた第33回長崎県新人発表演奏会オーディションに審査委員として、応募者全員の演奏を審査させていただき、そしてほぼ3ヶ月後になる6月24日に優秀賞に選ばれた方々の演奏を長崎ブリックホール大ホールで聴かせていただいた。

演奏家にとって演奏を聴いていただく聴衆はなくてはならない存在だ。当日もいろんな想いを持った聴衆が来場されていた。出演者の御両親、御家族、友達そして出演者の先生方。そしてもちろん純粋に音楽を楽しみにいらした一般の人達も当然来ていらしたようだ。

しかし、「ここが」要注意だ。一般に公開している音楽会には何処の、どの様な方がどのような理由で聴きに來ておられるか本当に分らない。私事になるが、今日私が指揮者と云う仕事に携わる様になったそのきっかけは、新鮮な空気と神秘的な星空を夢見て休暇のため大都会から逃避してきたアメリカ屈指のオーケストラの事務局長が、偶然にも山々に囲まれた小さな街で開催された素朴な室内演奏会で私のヴィオラを聴いた事から始まる。その日、演奏会場では話もしなかった彼から突然「お会いしたい」と云う電話をもらったのが、その4ヶ月後のクリスマス・イブの日だった。

ただ心地よい音の響きを楽しみむ事だけで満足する聴衆の他に、専門家とまでは言わないでも、音楽演奏芸術を作曲家の哲学まで掘り下げて理解している聴衆も多く居られる。このような人達の観点から、自分の演奏を見つめた事があるだろうか。自分が選曲した作品を、どのように「演奏」に繋げるかには、いろんな対応の仕方があると思う。演奏家、つまり「再現芸術家」は何を再現するかを把握していないと、課題を果してない事になる。もっと突き詰めて言い換えれば、演



奏者は「何を表現したい為に、何故その曲を選んだのか」とも言える。作曲家が書いた音譜を、高度な技術をもって正確に弾くことは当たり前ののだが、それだけではその音に託された作曲家の意図が表現されない。ピカソがキュビズムの時期に入った頃、それを観て驚いた人々に「私は、目でなく、頭脳が観たものを描いているのだ」と説明したと言われるが、演奏家は、印刷された音符の裏に潜む、作曲家の心情を汲み取り、その意を音楽と云う言葉に翻訳して聴衆に伝える事で、ようやくその任務を果たした事になる。

長崎の若い世代の音楽家には県を挙げての新人発表演奏会がある。一世紀の三分の一の間にわたって行われている伝統行事だ。一方、一人前の演奏家を育てるためにはまず真の意味での演奏家精神と基礎技術を身に付けなければいけないが、それには少なくとも30年の時が必要だ。良い演奏家として育つには聡明な指導者にめぐり会い、良い音楽環境に育つのが必須条件だが、演奏家として大成して行く道は、さらなる工夫と経験を積み重ね、それをどの様に生かしていくかにかかってくる。新人発表演奏会は、この基礎固めの課程の大きな節目だと思う。今回、確かにこの発表会で力強く育っている若木を確認できた事は喜ばしい事だった。



さらに、いい発表会にするために

友永 仁

第33回長崎県新人発表演奏会推進委員会委員長
元大村高等学校校長



長崎県新人発表演奏会推進委員会は現在12人で、主な業務としては「長期的展望に立って新人発表演奏会振興のための基本的方策を立案すること」「審査員を決定すること」があります。これまでも様々な改革方策を立案してきましたが、33回演奏会では、大きな見直しを行いました。それは県外審査員の招聘です。

従来より、厳正な審査を行うため、審査員は1〜2年で交替しており、昨年の32回演奏会までは、県内在住の方に委嘱していました。それを今回から県外審査員として2人の方を招聘することとしました。県外審査員の新しい風により、オーディションに新たな刺激が加わり、全国的にも「長崎県新人発表演奏会」が大きくPRできるチャンスを得たと思っています。さらに、来年以降に向けて様々な検討が加えられています。応募料5,000円をいただくことと、課題曲の新設がその大きな改正点です。発表演奏会で「特に優れた人がいた場合、最優秀賞を授与することも決まりました。

また、伴奏者賞の検討もしています。以前、ある演奏会のプログラムに、伴奏の欄に「ピアノ」と記されているのを見ました。つまり、「伴奏○△さん」ではなく、「ピアノ○△さん」と書かれていたのです。伴奏の大切さは、今さら論ずるまでもありません。例えば、オーケストラ伴奏のオペラをピアノでやる場合、弦が静かに奏すとか、フルートのスラーであったり、などで、伴奏に求められる音の表現には重要なものがあります。今回の演奏会では、フルートの佐々静香さんの演奏と同時に、伴奏の中根洗品さんの一体感は見事でした。会場でも多くの賛辞を耳にしたところです。そうしたこともあり、立派なソロを支えたり、時にリードした伴奏者も表彰してはどうかという検討をしています。

このように、より良い発表演奏会になるよう、推進委員会ではいろんな議論をしています。再来年で35回の節目となる長崎県新人発表演奏会では、クラシックを愛しむ長崎県民の大きな財産です。ステージマナーや聴衆の皆さんの声など、毎年、演奏会を計画する時も終ってからの反省会でも話題になるこれらのことも、機会があれば共に語りあっていきたいと思っています。

それにしても会を支えた裏方を始めスタッフの皆さん、ご苦労さまでした。

◎会場アンケートから



- ◎例年に比べ、とてもレベルが高い演奏会だったと思います。次年度からもこのレベルの方々による演奏を期待します(10代/女性)
- ◎新人とは思えないほど堂々とした演奏はとても立派だと思った。この演奏会にキャッチコピーをつけてみてはいかがでしょう(30代/女性)
- ◎出演者のプロフィールをもう少し詳しく知らせて欲しい。せめて卒業した学校名や師事した先生は最低限必要だと思う。(40代/女性)
- ◎作曲の部を作って欲しい。あったら出たいです!(20代/女性)
- ◎みんなが知っている曲を演奏に入れた方が親しみやすいのでは?(50代/女性)
- ◎もう少し開演時間が早いと思います。18時開演くらい(30代/女性)
- ◎フルートの音色がすごくきれいだった。また、ひびいてよかった。やさしい感じの音だった。私もあんな風にふいてみたいと思った。ヴァイオリンは、はやくひけてすごかったし、かっこよかった(10代/女性)
- ◎吉川さんの歌と楠木さんのピアノはいつまでも聞いていたかった。(30代/女性)
- ◎長崎にもこの様に素晴らしい方々がおられることをうれしく思います。声楽の方はあまり聞くチャンスがありませんでしたが、今日は本当にソクソクしました。お客さんにももう少し若者が来てほしいと思います(70代/女性)

来年(34回)の実施要項です(要点のみ)

◎応募資格

本県内に在住する者(本県出身者で県外で勉強中の者も含む)ただし、過去、発表演奏会に出演した者を除く。

◎募集部門

声楽・ピアノ・管弦楽・弦楽器・ギター

◎応募料

5,000円(新設)

◎演奏曲

課題曲(新設)と自由曲

◎オーディション

- (1)日 時/平成18年3月14日(火)~15日(水)
- (2)会 場/とぎつカナーホール
- (3)応募締切/平成17年12月26日(月)当日消印有効
- (4)申 込 先/〒850-8570 長崎市江戸町2-13 長崎県文化団体協議会事務局(長崎県文化振興室内)

◎発表演奏会

- (1)日 時/平成18年5月20日(土)
- (2)会 場/長崎ブリックホール大ホール
- (3)出 演 者/オーディションで「優秀賞」を受賞した者。
- (4)最優秀賞/出演者の中から特に優れた者に「最優秀賞」を授与する。賞金:10万円(新設)

※詳しくは:長崎県文化団体協議会事務局まで
Tel.095-822-6049

EVENTS

ホールスタッフ

県内にある公立ホールは44。そのホール運営と事業・公演の企画進行にあたるのがホールスタッフ。この記事では、その中から華やかなイメージの舞臺裏を支えるスタッフの素顔を紹介します。第一回目は、自主事業を次々に打ち出し、今県内注目度ナンバー1のとぎつカナリーホールの田中副館長です。

とぎつカナリーホール副館長／田中昭彦

「実は中学の頃からバンド小僧だったんですよ。恥ずかしながら作曲も100曲ばかり」。笑うと少年の顔になった。憧れの人は坂本龍一。プレイヤーとしてもコンポーザーとしても尊敬している。そんなバンド小僧が、20数年後、音響の良さでは県内有数といわれるホールの副館長として、運営を切り回している。

豊かな緑とやさしい光につつまれた文化の森公園の中にある「とぎつカナリーホール」は、開館して4年目。自主事業が盛んで、年平均10本。

カナリーホールという名称は、人々がここに集い、小鳥のように文化のさえずりをあげてほしいという願いと、「かなり良いホール」という洒落っ気も込めて名付けられた。地元の文化協会を中心とした「文化ホールが欲しい」という地道な運動で、建設のために集まった募金は600万円。その募金で寄贈されたクリスタルピアノが、ホールのロビーで来館者を暖かく迎えている。

スタッフは、長崎ブリックホールの初代館長だった山下和俊館長他、6人。山下館長が舵取り役なら、田中副館長はまさにエンジン役である。

「いいホールとは、いい演奏・観賞をするためのハード、ソフト画面の環境が整っていないといけない」と思い

人生ってほんと分からないですね。
今の私にとってカナリーホールは
「生きがい」です。



■ロビーに置かれた
クリスタルピアノの前で
カナリーホールの
スタッフ全員集合。
座っているのは山下館長



■田中さんの企画による“自主制作型”イベントのチラシ。



ます。お客さんにいい演奏を聴かせたい。そのためには、演奏家にもいい環境を整えて気持ち良く演奏してもらうことが、私たちスタッフの仕事だと思っています」

「住みよい町から住みたい町へ」というスローガンを掲げる平瀬町長の文化行政への熱意もホールスタッフの支えである。

田中さんは大村市生まれ。音楽小僧でもあったが、中学から大学までテニス部に所属した体育会系的一面も。

「学生時代は県庁で観光行政をやりたいと思っていました。長崎の観光発展のために何か仕事をしたい。でも3年連続で公務員採用試験を受けていざれも失敗、最終的にはオランダ村に拾っていただきました」

就職したのは、オープン7年目の長崎オランダ村

グループ。その船舶運航会社、ゼイクルーズ(株)に配属となり、企画・営業のノウハウを叩きこまれた。

入社して最初の仕事は、「これ英文に翻訳してオランダの造船所にファックスしといてよ」だった。船舶業界の専門用語だらけの職場で右往左往、ハウステンボスの立ち上げ真ただ中ということもあり、朝4時起床し、家を出て帰りは深夜1時2時の毎日が続いた。その後「動く広告塔」威臨丸の全国展開のための横浜事務所開設と全国への営業活動、ハウステンボス福岡事務所の集客営業、コンベンション専用チームへの配属。営業活動の中で様々な人脈ができた頃、ハウステンボスも経営状況が厳しくなり希望退職を募ることとなった。

「他にやりたいこともあって、辞めるか残るか悩んでいたところ、神近さん(初代ハウステンボス社長)に相談に行っただけです。そしたら、君の年代では10年単位で仕事が替わってもいいんだよ、とあっさり言われて気持ちが楽になった。別に再就職のあてはなかったんですが、辞めちゃいました」

それから、約1年。「時津に新しく出来るホールが人を探しているけど受けてみたら」と声を掛けてくれたのは、ハウステンボス時代から懇意にしていたシーハットのおおむらのスタッフだった。ホールでイベントの仕事をやりたかったこともあり、「渡りに船」と採用試験を受け、採用された。「人生ってほんと分からないですね。今の私にとってカナリーホールは、生きがい」です。」と笑った顔は自信に溢れている。

「二手三手先を見る人」、若いスタッフの一人は、田中さんをそう評した。

その田中エンジン率いるとぎつカナリーホール。自主事業の中でも特にお勧めは、県の音楽連盟



時津街道にスポットをあて、茶屋（本陣）を再現。時津の歴史をひもとく空間。



カナリーホールのライトアップ

とぎつカナリーホール

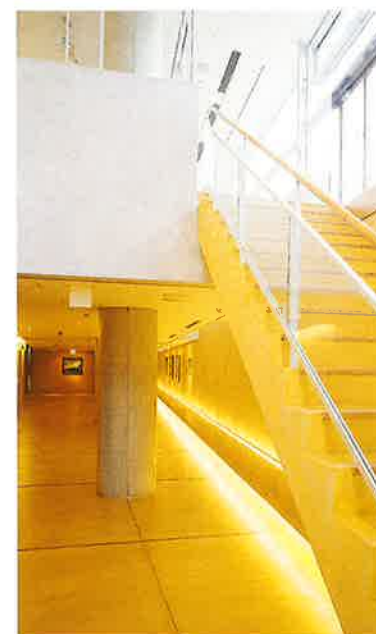
〒851-2104 長崎県西彼杵郡時津町野田郷62番地
TEL 095-882-0003 FAX 095-882-0307

●開館時間9:00～22:00 ●休館日/月曜日・12月29日～1月3日
※但し、月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館日となります。

- 敷地面積/125.616㎡ ●駐車場
- 建築面積/4,823㎡ 第1駐車場/129台(身障者用2台)
- 延床面積/6,258㎡ 第2駐車場/30台
- 第3駐車場/101台
- 主催者用/299台



音響反射板を備えた響きの良い770席のホール。
音楽をはじめ、演劇や会議など多目的なイベントに利用できる。



との共同開催事業でもある6月の「音楽見本市&カナリー音の博物館」と秋の「マタニティーコンサート」、それと12月の「クリスマスコンサート」である。また今年度の目玉のひとつに本場の文楽劇場から若手中心に招聘する「人形浄瑠璃」がある。つてをたどって、直接国立文楽劇場へ交渉。11月に公演が実現することになった。

「今は、いわゆる買い取り公演よりも自主制作型のものに重きを置いて企画をしています。悩みは、年間運営費に見合う収入が見込めないことです。いいものを安く地域住民に提供したい。でも収支が釣り合わないければ永く続けることは難しい……」

公立ホールゆえに、入場料はせいぜい3,000円程度を上限としているので、どうしても支出超過になる。そこが企画担当者として痛し痒しのところだ。

「こういう不景気な時には、文化芸術って、一番最初に切り捨てられるところ。その辺は前職の観光事業も同じ。でも、文化芸術的な要素が生活からなくなれば、それは砂糖のない料理と同じで味気ないもの。文化芸術に触れることは、人が人として生きていくなんらかの力や心の豊かさになると思っています」

いまや長崎の新しい場所となりつつあるとぎつカナリーホール。来春3月には、第34回新人発表演奏会のオーディションがここで開かれる。(江口)



町民の寄附で配置したクリスタルピアノ

過去3年間の演目のチラシ。
音響設備のレベルが高いがカナリーホールでは、演奏会の他、寄席や演劇の公演も行われ、多彩なニーズに応えている。

広々としたリハーサル室はバレエ、ジャズダンスの練習室として、またミニホールとしても利用できる。



■黒崎義介展・生誕100年記念事業

平戸市生まれの画家、黒崎義介の生誕100年を記念する行事が、2005年3月開催された。黒崎義介は日本画家としても多くの秀作を残し、とくに絵本など、子ども向け、子どもを描いた多くの作品が有名である。記念式典が行われ、画伯の存命中も含めて空前の規模と言われた2週間の絵画展では3千人近いお客様が来場、なつかしさや新たな感動にひたっていた。

黒崎義介展



会場にはたくさんの方が観覧に訪れた



近年では、藤浦洸、黒崎義介といった、昭和のあたる時代、全国の人々を惹きつけた平戸出身の芸術家の顕彰事業も行った。また、大航海時代に遡れば、平戸を世界史に登場させる役割を果たした人物も少なくない。江戸幕府の重臣でもあり、平戸オランダ商館設置に大きな役割を果たしたウィリアム・アダムス（三浦按針）については、近年ようやくオランダとイギリスの外交担当者の臨席をいただいたの記念事業が定着してきた。一方では台湾をオランダの植民地から解放した鄭成功について、その生誕地の方々を中心に、毎年台湾や中国から多くの参列者を迎えての生誕祭が行われている。

平戸オランダ商館復元の動きが具体化するにつれ、城下町としての町並みを見直そうという動きも始まった。平戸の文化をまっすぐに生かす、という意図のもと、いくつかの出版事業も行ってきた。これはこの10年ほどの平戸市史編纂事業へとつながって

文化活動を行う私たちは、この「振興」基本法の目指すものをたえず念頭においておかなければいけないのではないかと思っている。

英語の「ゼネレーション」には30年という意味もある。親から子へひとつ世代が入れ替わる時間という意味だろう。平戸市文化協会はまもなく設立30周年を迎える。まさしく私の親の世代が設立し、私は五年前より代表を仰せつかることとなった。これまでの間、地域における文化協会の役割は大きく変化してきたように感じている。

もともと文化という言葉は相当に包括的なものではあるが、平戸の場合は更に多くの歴史資産が文化協会の守備範囲となる。結果、音楽を原点に参加した私も歴史と無縁ではられない。歴史を活かしたまちづくり事業、平戸オランダ商館の復元、日蘭交流400周年（「12×おらんだ」）など歴史に根ざした多くの事業にこの文化協会を通じて関わらせていただいている。

■按針忌・「12×おらんだ」交流

平戸における海外貿易の功労者であり、1620年に平戸で没した三浦按針の功績と望郷の思いを偲ぶ「按針忌」は、市民が中心となって1996年に始められ、毎年（彼の命日である）5月の末近くの日曜日に、平戸港を望む墓前で開催されている。

現在、平戸市は当時の石造倉庫を核とした平戸オランダ商館の復元を、設置400年という節目の年にあたる2009年秋を目標に推進中である。

オランダ人フルーティスト、ウィル・オッフエルマンズと趣味でフルートをたしなむ町田との出会いが発端となった異文化交流事業「12×おらんだ」は西暦2000年の「ながさき阿蘭陀年」を象徴するかのようにも続けられている。

写真は、2003年に参加した石の彫刻家ハンスが、子どもたちと粘土を使ってエンブレムづくりをしているところ。オランダでは、その家を象徴する造形を表札のように飾る伝統があるという。

この事業で平戸滞在を経験したオランダ人たちはすでに50人に達しており、商館移転後長らく途絶えていた平戸とオランダとの交流の復活は、平戸オランダ商館復元が単なる建築物の設置ではないことを印象づけている。



12×おらんだ交流



按針忌

長崎を文化王国に

地域文化の担い手 平戸編



■郷土芸能のジャンガラ

テレビで某県のえらい人が「当県をスポーツ王国に」と言っているのを眺めながら長崎県のことには思いを馳せていた。たとえば長崎県をスポーツ王国に（がんばれVファールン）、観光王国に、造船、工業、農業、水産、福祉、ずーっといつて、芸術・文化王国なんてどうなんだろう。

あまり知られていないが「文化芸術振興基本法」というのが平成十三年度に施行された。経済大国と言われてきた日本国が「これから我が国は芸術大国を目指します」と言っているのかどうか、第一条を引用してみる。

この法律は文化芸術が人間に多くの恵沢をもたらすものであることにかんがみ、文化芸術の振興に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文化芸術の振興に関する施策の基本となる事項を定めることにより、文化芸術に関する活動を行う者の自主的な活動の促進を旨として、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進を図り、もって心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。（文化芸術振興基本法第一条「目的」）

そして、地方公共団体たとえば長崎県は、文化芸術の振興を推進する責任があり、国はそのための法制・財政の措置を講じる云々と続く。

「振興」という文字から連想されるのがおよそ五十年前に施行された「離島振興法」。離島の多い長崎県に多くの恵沢をもたらしてくれたことは疑う余地はないが、心豊かで活力ある社会が実現したかは異論のあるところではないだろうか。各地で様々な

<平戸文化協会会長>

町田 雅之

◎プロフィール

1951年（昭和26年）平戸市生まれ

県立猶興館高校卒。

（有）町田美装工芸社代表取締役

現在：平戸市文化協会会長。長崎県美しいまちづくりアドバイザー、長崎県屋外広告ブル審議会委員他。日蘭交流400周年記念事業として始まった「12×おらんだ」実行委員長を務めた。平成10年には、平戸文化協会として第14回地域文化章を受賞した。



■鄭成功まつり

大航海時代、平戸を本拠にしていた中国の海商が日本人女性と結婚し、1624年に平戸で生まれたのが鄭成功である。のちにオランダの植民地であった台湾を解放する。中国でも有名な英雄の一人。

7月14日の誕生日には毎年「鄭成功まつり」が開催され、台湾からも多くの崇拜者が御参りに訪れる。2005年には中国総領事も参加をいただき、台湾からの訪問団と交歓する貴重な風景が見られた。

按針忌から鄭成功まつりに至る期間は、ザビエルが平戸を訪問した(1550年)ことを記念する行事、空海が唐に渡った(804年)ことを記念する行事などが連続する。



鄭成功まつり



祈りの里コンサートin木ヶ津

平戸島の中央部にある小さな教会の壁に飾られた永井隆博士の宗教画「十字架の道行」が、朝夕に信者のみなさんを静かに見守っています。被爆60年の節目の夏、地元のみなさんと平戸市文化協会、そして長崎県文化団体協議会の思いがひとつになって、8月7日「祈りの里コンサートin木ヶ津(きがつ)教会」が開かれました。開け放たれた窓からせみしぐれがふりそそぐ中、ほぼ満員のお客様を前に地元の音楽グループの演奏で始まり、長崎県新演奏家協会のすばらしい歌声が披露されました。

最後は永井博士の著作を元に作られたといわれる「長崎の鐘」を会場内の全員で声高らかに歌い上げ、平和への祈りを新たにしました。

■紐差教会聖歌隊



■コールアンジェラス



■長崎県新演奏家協会、右から佐藤泰子さん古賀玲子さん、ピアノは後藤美樹さん

■平戸市文化まつり平戸市美術展覧会

平戸文化まつりは、当協会が設立された1976年に始まる会員の活動発表の場であり、その数年前より始まった平戸市美術展覧会と同時期に開催されている。会員のほとんどが何らかの形で、出演・運営に携わる行事である。



平戸市文化まつり／舞台発表の一場面

いる。こういった新しい動きを採り入れながらもこの30年間ずっと開催を続けてきたのが、平戸市文化祭である。現在では「平戸市文化まつり」と名称を変え、平戸市美術展とも連携しながら「舞台発表」「生花展示」「茶道呈茶」など、会員中心の包括的な活動発表の場として、会員自らによって運営されている。素人芸が圧倒的に多い中で、入場を無料としないのも特徴のひとつかもしれない。財源というより、会員の参加意識とコスト意識、ひいてはこの費用負担を参観者にどう還元すべきかという観点で、自らの芸を高め、未知の喜びと出会うきっかけにしたいという思いからである。文化では食えないと言われて久しいが、私たち文化協会のリーダーがそれに納得してはいけなと思う。これは文化を経済へと転換していく小さなひとつのチャレンジでもある。

平戸市には現在、平戸神楽と平戸ジャンガラという国指定の重要無形民俗文化財がふたつあり、当然私たちの会員でもある。指定の形態を問わないのであれば、もつと多くの伝統芸能・伝統行事が存在する。今、地方のこういった伝統芸能・伝統行事の保存には、多くの困難を伴うようになってきている。私たちの暮らしぶりの変化が大きな理由ではあるが、こういった芸能・行事に携わる人々の誇りや愛着は未だ極めて強いものがある。この思いを次の世代につなげるための、単に財政的なだけではない確かな手だても必要だ。古来、神様に芸を奉納する人を芸能人と称していたという。ここからまた新たな芸能人が誕生し、やがて文化王国長崎県が実現することを願ってやまない。

歴史も古い平戸神楽



■平戸神楽・平戸ジャンガラ

平戸神楽は1987年に、平戸ジャンガラは1997年に、それぞれ国の重要無形民俗文化財に指定された。平戸神楽は1647年に橘三善が全国の神楽を見聞して集成したもので、現在も県北部の神職によって伝承され、各地の氏神社に例祭などで奉納されている。

写真はクライマックスともいえる真剣を用いた「二剣」の舞。

平戸ジャンガラはおよそ450年前から始まった豊作祈願の行事。8月のお盆の時期を中心に平戸島内の各所で奉納される。雨乞いの行事としての面目も未だ健在と思われる。

平戸ジャンガラ



「しま」の教会音楽コンサート

OMURA室内合奏団と五島地域の合唱団によるクラシック音楽（合唱団）を中心とした合同演奏会を地域の文化拠点となる文化ホールで、「しま」の大切な財産である教会でアウトリーチコンサートを開きます。

【1】新上五島町会場

- 日時：11月3日(木)19時
- 会場：新上五島町鯨賓館ミュージアム・ホール
- 料金：一般500円
- ・高校生以下無料(学生入場券が必要)

*アウトリーチコンサート

- 日時：11月2日(木)19時
- 会場：青砂ヶ浦教会、中之浦教会
- 料金：無料

【2】五島市会場

- 日時：11月5日(土)14時
- 会場：福江文化会館
- 料金：一般500円
- ・高校生以下無料(学生入場券が必要)

*アウトリーチコンサート

- 日時：11月4日(木)14時
- 会場：奈留教会、浦頭教会
- 料金：無料



青方教会での演奏会(平成16年)

長崎県人形芝居フェスティバル

県無形民俗文化財の「千綿人形浄瑠璃」と「皿山人形浄瑠璃」、世界でも珍しい人形遣いがロクロ車と呼ばれる箱車に腰掛け一人で一体の人形を操る国選択無形民俗文化財指定の東京都八王子市の「八王子車人形西川古柳座」、女性が一人で人形を操る大阪市の「乙女文楽 桐竹繭紗也」による人形芝居。

【1】波佐見町会場

- 日時：11月18日(金)18時30分
- 会場：波佐見町総合文化会館(ウェーブホール)
- 料金：一般500円、高校生以下無料(学生入場券が必要)

【2】長与町会場

- 日時：11月20日(日)18時30分
- 会場：長与町民文化ホール
- 料金：一般500円、高校生以下無料(学生入場券が必要)



ながさき室内楽祭

自ら室内楽の演奏を楽しんでいる方々の発表の機会をすることで、活動の励みとなり、芸術文化活動に対する理解と共感を広げることを目的として、平成14年度より室内楽コンサート「ながさき室内楽祭」を開催し、今年で4回目となります。

今回より、日本の室内楽界のの中心的な存在であり、九州交響楽団や新日本フィルのソロ・コンサートマスターである豊嶋泰嗣氏を音楽監督に迎えての開催です。

- 日時：12月24日(土)18時30分
- 会場：アルカスSASEBO中ホール
- 料金：未定



OMURA室内楽奏団

※お問い合わせは、いずれも長崎県文化団体協議会へ(Tel.095-822-6049)

EVENT@GUIDE

最新イベントガイド

今年も盛り沢山！第17回長崎県民文化祭

「第4回長崎県ライトミュージックフェスティバル」

今年はスペシャルゲストでブレイク必至!!『エイジアエンジニア』(エイベックス)がやってくる。昨年に引き続き今年もフェスティバル出演者の中からグランプリを決定!!賞金10万円。当日の審査には大手各レコードメーカー・アーティスト事務所担当者が参加!!楽しめること間違いなしのフェスティバル。

- 日時：11月12日(土)17時～
- 会場：諫早文化会館
- 料金：
 - (前売)一般1,000円
 - 高校生以下500円
 - (当日)一般1,200円
 - 高校生以下700円



しまの芸術祭

豊かな「しま」の自然溢れる、今年120周年を迎える平戸市度島小中学校を舞台に、県内唯一のプロ活動を行っているOMURA室内合奏団と、島の子ども達による交流演奏会。

- 日時：11月1日(火)14時
- 会場：平戸市度島小中学校体育館
- 料金：無料



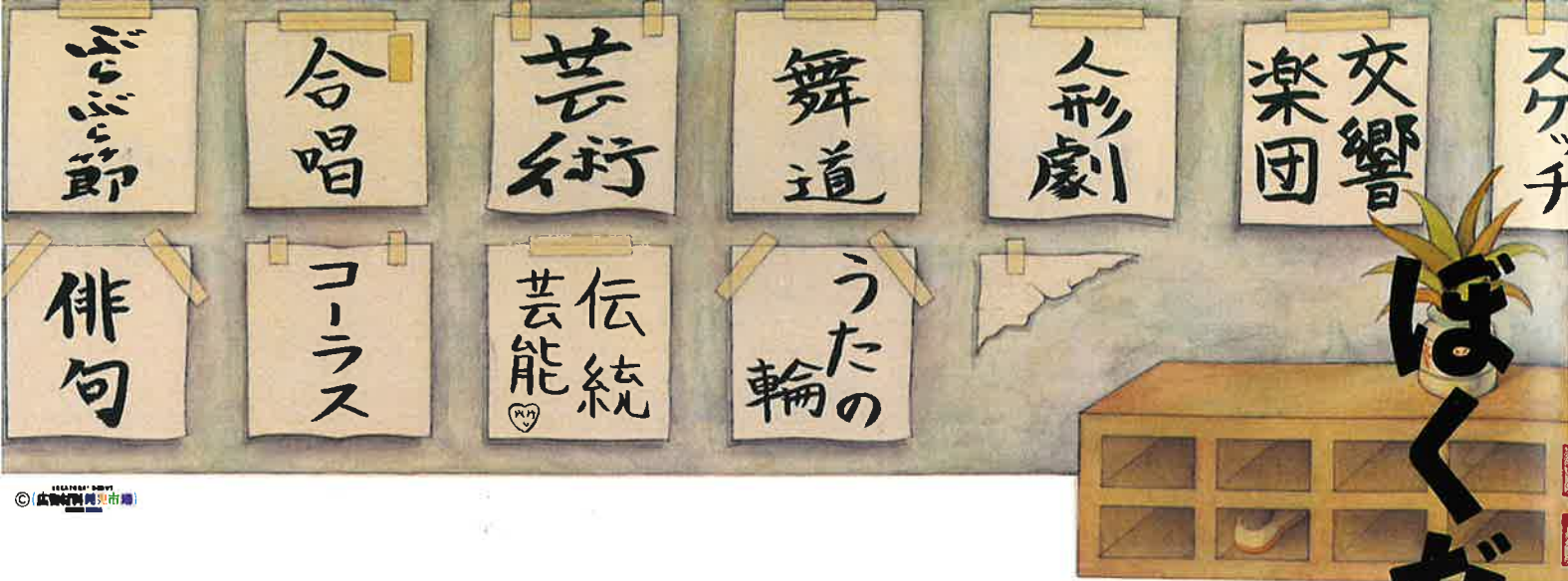
崎戸町立平島小中学校での演奏会(平成16年)

日本の伝統芸能公演 “津軽三味線”

‘津軽三味線王’木之下真市の、激しく怒涛のような響きの中に、繊細な独特のリズムを刻んだ演奏は見逃せない。



- 日時：10月21日(金)19時～
- 会場：インフェニタス江迎町文化会館
- 料金：入場料：一般1,000円・高校生以下無料(学生入場券が必要)



© 長崎県文化振興室



第17回 長崎県民文化祭

2005年10月1日(土) ▶ 11月30日(水)

主催／長崎県・長崎県文化団体協議会

後援／長崎県教育委員会・長崎新聞社・西日本新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞西日本社・NHK長崎放送局・KTN・NIB・NCC・NBC・FM長崎

【お問い合わせ先】長崎県県民生活環境部文化振興室 〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL.095-895-2318・FAX.095-895-2564

【ホームページ】長崎文化ジャンクション <http://www.pref.nagasaki.jp/bunka/>

この秋、県内各地で県民による文化創造型イベントが盛り沢山。
これまでに出会わなかった意外な文化に触れる絶好のチャンスです。
県内の多彩な文化を体験し、長崎に文化創造のエネルギーと交流の輪を広げましょう。

ぼくだって文化してる。

第50回記念長崎県美術展覧会公募展

県

50th

長崎県
美術展覧会
公募展

展

長崎県文化史の一翼を担って50年。日本画・洋画・彫刻・
工芸・書・写真・デザインの傑作が一堂に揃う。会期中、委
嘱作家の提供作品によるオークションも開きます。

＊移動展

【1】雲仙会場

■期間：10月28日(金)～10月31日(月)

■会場：雲仙おやまの情報館別館

【2】対馬会場

①■期間：11月3日(木)～11月6日(日)

■会場：上対馬総合センター

②■期間：11月10日(木)～11月13日(日)

■会場：美津島文化会館

【1】長崎会場

■期間：9月14日(水)～9月23日(金)

■会場：長崎県美術館

■開館時間：10時～20時／休館日なし

【2】佐世保会場

■期間：9月29日(木)～10月9日(日)

■会場：佐世保市博物館島瀬美術センター

■開館時間：10時～18時／休館日：10月4日(火)

【3】諫早会場

■期間：10月13日(木)～10月23日(日)

■会場：諫早文化会館

■開館時間：9時～17時(初日は10:00)
／休館日：10月17日(月)

区分	長崎会場／入場料				佐世保・諫早会場／入場料			
	当日	前売り	割引	団体	当日	前売り	割引	団体
一般	500円	400円	450円	400円	250円	200円	220円	200円
高校	300円			200円	150円			100円
70歳以上	400円			320円	200円			160円
小中生	無料				無料			

●団体は20名以上

●障害者手帳保持者及び介護者1名は5割減額

●前売券販売所：

県文化振興室・県展事務局・浜屋プレイガイド・画材店など

☆移動展は入場無料です。

☆タイトル大募集！☆

長崎県文化団体協議会では、これまで年1回機
関誌「文協」を発行してきました。今回から、より
手ごろで読みやすい文化情報誌としてリニューアル
発行となったものです。つきましては、新しい情
報誌に相応しい誌名を募集します。応募される方は、
氏名(団体名)を明記され、事務局あて11月30日
までに、郵送またはFAXにて提出してください。

◎長崎県文化団体協議会とは？

「長崎県内における芸術文化団体相互の連絡協調を図り、文化活動を
促進して県民文化の向上を期する」ことを目的に昭和38年発足。現在
102団体が加盟しています。会長は金子原二郎長崎県知事。

編／集／後／記

リニューアル化を決めて3ヶ月、なんとか予定の9月に間に合いま
した。今回は新人発表演奏会の特集。いかがでしたか？多くのご意見、
ご感想をお寄せください。次回は1月。県民文化祭特集です。(江口)

BUNKYO 文協

第62号(2005年)平成17年9月発行

発行／長崎県文化団体協議会

住所／〒850-8570 長崎市江戸町2番13号

長崎県県民生活環境部 文化振興室内

電話／TEL (095) 822-6049 FAX (095) 824-8192

編集／長崎県文化団体協議会事務局

印刷／(株)藤木博英社